



「青年は幻を見、老人は夢を見る」

日本の敬愛するみなさま、ブラジル宣教を覚えていつもお祈りとご支援をありがとうございます。日本は梅雨が明け、早くも猛暑日が続いているようですが、お変わりなくお過ごしでしょうか。

ここブラジリアは朝晩は冷え、日中は30度超えの暑さという砂漠のような気候ですが、家族ともども健康が守られ子どもたちは冬休みを迎えています。次男・三男・四男はこの休みを利用してサンパウロのキャンプに参加する予定です。みことばと信仰の友に励まされ、神ご自身と出会う経験をしてきて欲しいと祈っています。妻は同じキャンプ場で二週間のキッチン奉仕に当たります。

最近、私の心に留まっているみことばは、冒頭の言葉。「終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。」使徒2:17

「息子」から「青年」「老人」に至るまで、すべての人が聖霊に満たされるとき、信仰の眼が開かれ、主の幻や夢を見るというヨエルの預言。今は聖霊の時代ですが、日々御霊によって歩まなければ、信仰の眼は簡単に曇らされてしまう混沌の時代でもあります。

息子たちは、パンデミックの間に覚えたギターやピアノをもって、教会の集会で奏楽の奉仕をするようになりました。また、青年たちは自発的に集まり、聖書を学び祈るグループを続けています。7月からは、サッカーを通して地域の子どもたちへの伝道も始まります。若い青年たちが、聖霊に導かれ、主の「幻」を追い求めていけるように祈り支えていきたいと願っています。

開拓中のヴァルゼンボニータには、多くの日系一世の高齢者がおられ、先日も80歳になる一世の方と知り合いになりました。「老人は夢を見る」とは、あの老預言者シメオンやアンナ（ルカ2章）のように、救い主イエスと出会い「私の目があなたの御救いを見たからです」と告白し、天の御国を仰ぎ見ることではないでしょうか。そのために、訪問を重ね、福音レターを届け、いろいろなお話を伺いながら、主イエスとともに生きることの幸いを証しさせていただいています。

妻は、在ブラジル日本大使館の駐在員の奥さまたちと知り合いになり、子育てや異文化生活の悩みを聞きながら、自然な形で信仰を証しする機会を得ています。

引き続き、みことばと聖霊に導かれて、私たちの働きが前進していくことをお祈りください。



上) 宣教礼拝後のワークショップ



左) 四男翔の11歳の誕生日に

近況と祈りのお願い

・ブラジリア教会

先日、リフォーム予定の牧師館宅と教会食堂に泥棒が入り盗難被害がありました。安井牧師家族は不在で人的被害はありませんでしたが、健康と安全のためにお祈り下さい。

・ヴァルゼンボニータの開拓／訪問伝道の祝福

洗礼の願いが与えられたあゆみ姉妹は、教会役員のゆり姉妹と受洗準備を始めています。初穂となるように。ふさわしい会堂が与えられ、救われる人々が起こされるように。宮原家、川村家、新保家、小山家、岩切家、前添家、伊藤家、大野家、仲田家、仲村家、中嶋家、園田家、伊波家、安田家、比嘉家、加野家、上間家、木村家、吉田家

2023年4-6月 献金のご報告と感謝

(2023. 4-6月分)	(1-6月) 累計
指定献金: 446,500 円	(880,100円)
現地支援: 317,960 円	(512,960円)
合計: 764,460 円	(1,393,060円)

2023年 献金目標額：410万円

(「浜田宣教師指定」310万円+現地支援100万円)

* 尊いおささげものを心から感謝申し上げます。ご支援してくださっている諸教会とお一人おひとりの祝福を心からお祈りさせていただきます。

●オンラインでの説教奉仕や宣教報告も随時受け付けています。「-12時間」の時差がありますので、日本の日曜朝の礼拝奉仕も可能です。以下のメールからお気軽にお問い合わせください。